

すてきな人に 出会えた

昨年、印象に残った
「小さな親切」の精神に溢れる
すてきなお二人を、ご紹介します

驚きと感激でどよめきました。

ようやく会えた
尾畠さん

大分県本部では感謝状を贈りたいと思ったものの、尾畠さんは豪雨被害にあった広島県呉市でのボランティアで、留守のことが多く、お会いするのに「苦労」。何度も何度もチャレンジをして、ようやく訪問の約束をとりつけましたが、時の人である尾畠さんのご自宅には、報道陣を始め訪問者が殺到し、なんと待つこと数時間……。

どんなに多くの方が訪れても、きちんと話を聞き丁寧に対応する尾畠さん。子どもたちの思いやりの心を育む「小さな親切」運動の趣旨に賛同し、表彰式への出席を快諾してくださいました。

また、当日は尾畠さんご厚意で、「自分の経験談が、子どもたちのため

になれば」と、質問コーナーが設けられました。

尾畠さんに質問！

●ボランティアを始めた
きっかけは？

28年前、登山者がケガをしないよう、由布岳の登山道の整備を始めたことがきっかけです。被災地に行くようになったのは、営んでいた魚屋を辞めた65歳から。世の中の役に立ちたいとの思いから始めました。

●ボランティアの中で、
一番きつかったこと、
辛かったことは？

被災された方がふさぎ込んでいるのを見るのが一番つらいです（涙ぐむ）。1日でも、1時間でも早く、元の生活に戻してあげたいと思って活動しています。

●反対に、嬉しかったことは？

被災された方から、「こんなことまでしてくれて、ありがとう」と言われるのが一番嬉しいです。

被災地についての質問では、涙ぐみ、厳しい表情を見せることもありましたが、「尾畠さんは、大分の誇り。今日は尾畠さんに会うという夢が叶い、嬉しい」と発言した子どもには、思わず照れ笑いも。

ふだんは、とてもひょうきんで、気さくな尾畠さん。ボランティアと一緒に参加したり、手伝いをしていく子どもを見かけると、思い切り褒めてあげるそうです。

「小さな親切」運動には、「これからも、子どもたちをどんどん褒め、育てる活動をしてください」とメッセージをいただきました。

笑顔で感謝状を受け取る尾畠春夫さん。自宅には数多くの感謝状の中から1枚、大分県本部の感謝状を飾ってくださっています。

スーパーボランティア 尾畠春夫さん 大分の誇りの登場に子どもたち感激！



子どもたちの質問に答える尾畠さん

あいさつ名人 長村由香さん 自分の居場所はここ、再び大好きな職場へ！

んな経緯があったのか、伺いました。
スタッフとの温かな交流

異動後も、何度か受付業務の応援に来ていた長村さんは、同事務センターでの仕事がますます心地よく、充実したものとなりました。その思いはスタッフの皆さんも同じで、長村さんの笑顔とあいさつが仕事の活力に。

そして、長村さんは「自分の居場所はここしかない」とまで思うようになりました。

DREAMS COME TRUE（夢はかなう）。長村さんの思いは会社に伝わり、元の職場に戻ることができました。

ところで受章後、周囲の変化はありましたか？とお聞きすると、山口県下関市の実家のお母様は、小さいときから「小さな親切」運動のことをよくご存じで、「あんだ、それは

ぶちすごいやん！」と大変喜んでくださったとのこと。実は、山口県は県本部と県下21支部が、熱心に親切運動を推進している地域です。

受章に恥じないように

先日、出勤しようと家を出た長村さんの目の前で、自転車に乗った高齢の女性がバランスを崩し倒れてしまいました。すぐに自転車を起こして、「大丈夫ですか？」と声を掛けたところ、その女性は、にっこり笑って「ありがとう」とおっしゃったので、一度はそのまま立ち去ろうとしました。しかし、「やっぱりご自宅まで送ろう」と思い直し、自転車を引いて送り届けてあげた長村さん。

「仕事でも、私生活でも実行章受章に恥じないようにしよう、という意識が芽生えた」とおっしゃいます。実行章の受章が、さらに一歩踏み込んだ親切へとつながりました。ちな



受付にて、長村由香さん（左）とインタビューの高橋誠総務部長（右）

みに、いつも時間に余裕をもって出勤しているので、遅刻はしなかったそうです。さすが！！

大好きな職場に戻り、元氣と癒しを与える存在として、ますますご活躍されることを期待しています。

※記事は、高橋誠さん（楠城南情報サービス総務部長）の長村さんへのインタビューをもとに、運動本部が構成しました。